



ユーザ アカウントおよび RBAC の設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [ユーザ アカウントおよび RBAC の概要, on page 1](#)
- [ユーザ アカウントの注意事項および制約事項 \(5 ページ\)](#)
- [ユーザ アカウントの設定, on page 5](#)
- [RBAC の設定 \(7 ページ\)](#)
- [ユーザ アカウントと RBAC の設定の確認, on page 11](#)
- [ユーザ アカウントおよび RBAC のユーザ アカウント デフォルト設定, on page 12](#)

ユーザ アカウントおよび RBAC の概要

Cisco Nexus シリーズ スイッチは、ロールベース アクセス コントロール (RBAC) を使用して、ユーザがスイッチにログインするときに各ユーザが持つアクセス権の量を定義します。

RBAC では、1 つまたは複数のユーザ ロールを定義し、各ユーザ ロールがどの管理操作を実行できるかを指定します。スイッチのユーザ アカウントを作成するとき、そのアカウントにユーザ ロールを関連付けます。これにより個々のユーザがスイッチで行うことができる操作が決まります。

ユーザ ロール

ユーザ ロールには、そのロールを割り当てられたユーザが実行できる操作を定義するルールが含まれています。各ユーザ ロールに複数のルールを含めることができ、各ユーザが複数のロールを持つことができます。たとえば、role1 では設定操作へのアクセスだけが許可されており、role2 ではデバッグ操作へのアクセスだけが許可されている場合、role1 と role2 の両方に属するユーザは、設定操作とデバッグ操作にアクセスできます。特定の VLAN やインターフェイスだけにアクセスを制限することもできます。

スイッチには、次のデフォルト ユーザ ロールが用意されています。

network-admin (スーパーユーザ)

スイッチ全体に対する完全な読み取りと書き込みのアクセス権。

network-operator

スイッチに対する完全な読み取りアクセス権。ただし、network-operator ロールは **show running-config** コマンドと **show startup-config** コマンドを実行できません。



Note 複数のロールに属するユーザは、そのロールで許可されるすべてのコマンドの組み合わせを実行できます。コマンドへのアクセス権は、コマンドへのアクセス拒否よりも優先されます。たとえば、ユーザが、コンフィギュレーション コマンドへのアクセスが拒否されたロール A を持っていたとします。しかし、同じユーザが ロール B も持ち、このロールではコンフィギュレーション コマンドにアクセスできるとします。この場合、このユーザはコンフィギュレーション コマンドにアクセスできます。



Note RBAC ロールでチェックポイントまたはロールバックを実行できるのは network-admin ユーザーだけです。他のユーザーはこれらのコマンドをロールの許可ルールとして持っていますが、これらのコマンドを実行しようとすると、ユーザー アクセスは拒否されます。

ルール

ルールは、ロールの基本要素です。ルールは、そのロールがユーザにどの操作の実行を許可するかを定義します。ルールは次のパラメータで適用できます。

コマンド

正規表現で定義されたコマンドまたはコマンド グループ

機能

Cisco Nexus デバイスにより提供される機能に適用されるコマンド。 **show role feature** コマンドを入力すると、このパラメータに指定できる機能名が表示されます。

機能グループ

機能のデフォルト グループまたはユーザ定義グループ **show role feature-group** コマンドを入力すると、このパラメータに指定できるデフォルトの機能グループが表示されます。

OID

SNMP オブジェクト ID (OID)。

これらのパラメータは、階層状の関係を作成します。最も基本的な制御パラメータはコマンドです。次の制御パラメータは機能です。これは、その機能にアソシエートされているすべてのコマンドを表します。最後の制御パラメータが、機能グループです。機能グループは、関連する機能を組み合わせたものです。機能グループによりルールを簡単に管理できます。

SNMP OID は RBAC でサポートされています。SNMP OID に読み取り専用ルールまたは読み取り/書き込みルールを設定できます。

ロールごとに最大 256 のルールを設定できます。ルールが適用される順序は、ユーザ指定のルール番号で決まります。ルールは降順で適用されます。たとえば、1つのルールが3つのルールを持っている場合、ルール 3 がルール 2 よりも前に適用され、ルール 2 はルール 1 よりも前に適用されます。

ユーザーロールポリシー

ユーザがアクセスできるスイッチ リソースを制限するために、またはインターフェイス、VLAN、VSAN へのアクセスを制限するために、ユーザ ロール ポリシーを定義できます。

ユーザ ロール ポリシーは、ロールに定義されているルールで制約されます。たとえば、特定のインターフェイスへのアクセスを許可するインターフェイス ポリシーを定義した場合、**interface** コマンドを許可するコマンドルールをロールに設定しないと、ユーザはインターフェイスにアクセスできません。

コマンドルールが特定のリソース（インターフェイス、VLAN）へのアクセスを許可した場合、ユーザがそのユーザに関連付けられたユーザー ロール ポリシーに含まれていなくても、ユーザはこれらのリソースへのアクセスを許可されます。

ユーザーアカウントの設定の制限事項

次の語は予約済みであり、ユーザー設定に使用できません。

- adm
- bin
- daemon
- ftp
- ftpuser
- games
- gdm
- gopher
- halt
- lp
- mail
- mailnull
- man
- mtsuser
- news
- nobody

- san-admin
- shutdown
- sync
- sys
- uucp
- xfs

ユーザパスワードの要件

Cisco Nexus デバイス パスワードには大文字小文字の区別があり、英数字を含むことができます。

パスワードが脆弱な場合（短い、解読されやすいなど）、Cisco Nexus デバイスはパスワードを拒否します。各ユーザーアカウントには強力なパスワードを設定するようにしてください。強力なパスワードは、次の特性を持ちます。

- 長さが 8 文字以上である
- 複数の連続する文字（「abcd」など）を含んでいない
- 複数の同じ文字の繰り返し（「aaabbb」など）を含んでいない
- 辞書に載っている単語を含んでいない
- 正しい名前を含んでいない
- 大文字および小文字の両方が含まれている
- 数字が含まれている

強力なパスワードの例を次に示します。

- If2CoM18
- 2009AsdfLkj30
- Cb1955S21



(注) セキュリティ上の理由から、ユーザパスワードはコンフィギュレーションファイルに表示されません。

ユーザーアカウントの注意事項および制約事項

ユーザーアカウントおよびRBACを設定する場合、ユーザーアカウントには次の注意事項および制約事項があります。

- ユーザロールに設定された読み取り/書き込みルールに関係なく、一部のコマンドは、あらかじめ定義された `network-admin` ロールでのみ実行できます。
- 最大 256 個のルールをユーザーロールに追加できます。
- 最大 64 個のユーザーロールをユーザーアカウントに割り当てることができます。
- 1 つのユーザーロールを複数のユーザーアカウントに割り当てることができます。
- `network-admin`、`network-operator`、`san-admin` などの事前定義されたロールは編集不可です。
- ルールの追加、削除、編集は、SAN 管理者ユーザーロールではサポートされません。
- インターフェイス、VLAN、または VSAN 範囲は SAN 管理者ユーザーロールでは変更できません。



(注) ユーザーアカウントは、少なくとも 1 つのユーザーロールを持たなければなりません。

ユーザアカウントの設定



Note

ユーザーアカウントの属性に加えられた変更は、そのユーザーがログインして新しいセッションを作成するまで有効になりません。

SUMMARY STEPS

1. `switch# configure terminal`
2. (Optional) `switch(config)# show role`
3. `switch(config) # username user-id [ password password] [ expire date] [ role role-name]`
4. `switch(config) # exit`
5. (Optional) `switch# show user-account`
6. (Optional) `switch# copy running-config startup-config`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	(Optional) switch(config)# show role	使用可能なユーザロールを表示します。必要に応じて、他のユーザロールを設定できます。
ステップ 3	switch(config)# username user-id [password password] [expire date] [role role-name]	ユーザーアカウントを設定します。 <i>user-id</i> は、最大 28 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。 デフォルトの <i>password</i> は定義されていません。 Note パスワードを指定しなかった場合、ユーザーはスイッチにログインできない場合があります。 expire date オプションのフォーマットは YYYY-MM-DD です。デフォルトでは、失効日はありません。
ステップ 4	switch(config) # exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) switch# show user-account	ロール設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、ユーザアカウントを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# username NewUser password 4Ty18Rnt
switch(config)# exit
switch# show user-account
```

RBAC の設定

ユーザ ロールおよびルールを作成

指定したルール番号は、ルールが適用される順番を決定します。ルールは降順で適用されます。たとえば、1つのロールが3つのルールを持っている場合、ルール3がルール2よりも前に適用され、ルール2はルール1よりも前に適用されます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config) # **role name** *role-name*
3. switch(config-role) # **rule number** {deny | permit} **command** *command-string*
4. switch(config-role)# **rule number** {deny | permit} {read | read-write}
5. switch(config-role)# **rule number** {deny | permit} {read | read-write} **feature** *feature-name*
6. switch(config-role)# **rule number** {deny | permit} {read | read-write} **feature-group** *group-name*
7. (Optional) switch(config-role)# **description** *text*
8. switch(config-role)# **end**
9. (Optional) switch# **show role**
10. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # role name <i>role-name</i>	ユーザーロールを指定し、ロールコンフィギュレーションモードを開始します。 <i>role-name</i> 引数は、最大 16 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	switch(config-role) # rule number {deny permit} command <i>command-string</i>	コマンドルールを設定します。 <i>command-string</i> には、スペースおよび正規表現を含めることができます。たとえば、「interface ethernet *」は、すべてのイーサネットインターフェイスが含まれます。 必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 4	switch(config-role)# rule number {deny permit} {read read-write}	すべての操作の読み取り専用ルールまたは読み取り/書き込みルールを設定します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	<code>switch(config-role)# rule number {deny permit} {read read-write} feature feature-name</code>	機能に対して、読み取り専用規則か読み取りと書き込みの規則かを設定します。 機能リストを表示するには、 show role feature コマンドを使用します。 必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 6	<code>switch(config-role)# rule number {deny permit} {read read-write} feature-group group-name</code>	機能グループに対して、読み取り専用規則か読み取りと書き込みの規則かを設定します。 機能グループのリストを表示するには、 show role feature-group コマンドを使用します。 必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 7	(Optional) <code>switch(config-role)# description text</code>	ロールの説明を設定します。説明にはスペースも含めることができます。
ステップ 8	<code>switch(config-role)# end</code>	ロール コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	(Optional) <code>switch# show role</code>	ユーザ ロールの設定を表示します。
ステップ 10	(Optional) <code>switch# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、ユーザ ロールを作成してルールを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name UserA
switch(config-role)# rule deny command clear users
switch(config-role)# rule deny read-write
switch(config-role)# description This role does not allow users to use clear commands
switch(config-role)# end
switch(config)# show role
```

機能グループの作成

SUMMARY STEPS

1. `switch# configure terminal`
2. `switch(config)# role feature-group group-name`
3. `switch(config)# exit`
4. (Optional) `switch# show role feature-group`

5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # role feature-group group-name	ユーザーロール機能グループを指定して、ロール機能グループコンフィギュレーションモードを開始します。 <i>group-name</i> は、最大 32 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	switch(config) # exit	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show role feature-group	ロール機能グループ設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、機能グループを作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # role feature-group group1
switch(config) # exit
switch# show role feature-group
switch# copy running-config startup-config
switch#
```

ユーザロールインターフェイスポリシーの変更

ユーザーロールインターフェイスポリシーを変更することで、ユーザーがアクセスできるインターフェイスを制限できます。ロールがアクセスできるインターフェイスのリストを指定します。これを必要なインターフェイスの数だけ指定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config) # **role name role-name**
3. switch(config-role) # **interface policy deny**
4. switch(config-role-interface) # **permit interface interface-list**

5. `switch(config-role-interface) # exit`
6. (Optional) `switch(config-role) # show role`
7. (Optional) `switch(config-role) # copy running-config startup-config`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # role name role-name</code>	ユーザーロールを指定し、ロールコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-role) # interface policy deny</code>	ロールインターフェイスポリシーコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<code>switch(config-role-interface) # permit interface interface-list</code>	ロールがアクセスできるインターフェイスのリストを指定します。 必要なインターフェイスの数だけこのコマンドを繰り返します。 このコマンドでは、イーサネットインターフェイスを指定できます。
ステップ 5	<code>switch(config-role-interface) # exit</code>	ロールインターフェイスポリシーコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	(Optional) <code>switch(config-role) # show role</code>	ロール設定を表示します。
ステップ 7	(Optional) <code>switch(config-role) # copy running-config startup-config</code>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、ユーザーがアクセスできるインターフェイスを制限するために、ユーザーロールインターフェイスポリシーを変更する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # role name UserB
switch(config-role) # interface policy deny
switch(config-role-interface) # permit interface ethernet 2/1
switch(config-role-interface) # permit interface fc 3/1
switch(config-role-interface) # permit interface vfc 30/1
```

ユーザロールVLANポリシーの変更

ユーザロールVLANポリシーを変更することで、ユーザーがアクセスできるVLANを制限できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config) # **role name role-name**
3. switch(config-role) # **vlan policy deny**
4. switch(config-role-vlan) # **permit vlan vlan-list**
5. switch(config-role-vlan) # **exit**
6. (Optional) switch# **show role**
7. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # role name role-name	ユーザロールを指定し、ロールコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-role) # vlan policy deny	ロールVLANポリシーコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	switch(config-role-vlan) # permit vlan vlan-list	ロールがアクセスできるVLANの範囲を指定します。 必要なVLANの数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 5	switch(config-role-vlan) # exit	ロールVLANポリシーコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	(Optional) switch# show role	ロール設定を表示します。
ステップ 7	(Optional) switch# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

ユーザーアカウントとRBACの設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
show role [role-name]	ユーザ ロールの設定を表示します。
show role feature	機能リストを表示します。
show role feature-group	機能グループの設定を表示します。
show startup-config security	スタートアップコンフィギュレーションのユーザアカウント設定を表示します。
show running-config security [all]	実行コンフィギュレーションのユーザアカウント設定を表示します。 all キーワードを指定すると、ユーザアカウントのデフォルト値が表示されます。
show user-account	ユーザアカウント情報を表示します。

ユーザアカウントおよび RBAC のユーザアカウントデフォルト設定

次の表に、ユーザアカウントおよび RBAC パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 1: デフォルトのユーザアカウントおよび RBAC パラメータ

パラメータ	デフォルト
ユーザアカウントパスワード	未定義。
ユーザアカウントの有効期限	なし。
インターフェイスポリシー	すべてのインターフェイスにアクセス可能。
VLAN ポリシー	すべての VLAN にアクセス可能。
VFC ポリシー	すべての VFC にアクセス可能。
VETH ポリシー	すべての VETH にアクセス可能。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。